

前へ

第2学期始業

長い夏休みが終わり、一・二日間間の2学期が始まりました。始業式で話した「三つの願い」をご紹介します。(要約)

岐宿中学校だより
文責：都々木

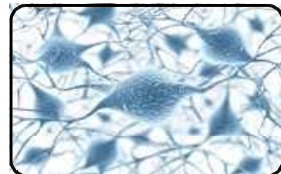
2学期の授業日は七六日間。体育大会、修学旅行、学習・合唱発表会、市内音楽発表会などの行事も含まれています。行事は、とても沢山のことを学ばせてくれます。仲間との協力や責任を果たすことの大切さ、リーダーシップ、やり遂げる喜び。そして、何より活動自体の楽しさ。沢山失敗しながら、つまずきながら、それでも一歩ずつ前へ進み成長してください。

【願い1】**友達の良いところをたくさん見つけてください。**誰にでも得意なことで、苦手なことがある、グー・チョキ・パーのように誰が一番なんて決めることはできません。「○さんのいいところはどこですか?」と突然質問されても、いつでも、誰のことでも、いくらでも、良いところを答えられるようにしてください。

【願い2】**行事では全員に何かの役割が当たり役に立つにはどうしたらいいか」「もっといい方法はありますか」「手伝うことはできないか」など失敗を恐れず行動してください。**
【願い3】**学校は勉強をするところ。高校受験の合格、不合格という結果は、毎日の自分自身の選択、勉強するのか・しないのかという、毎日の選択の結果なのです。選択を誤らないように心がけなくてはなりません。**選んで後悔しないように心楽しく元気で、笑顔あふれる学校生活を。

心に残るいい話

奇跡 跡



細胞一個が生まれる確率は、一億分の宝くじが連続して百万回当たるようなものだという。それが人間には六十兆個もあるのである。これはまさに奇跡というほかない。お互いがこの世に生をうけ、生きているのは当たり前前のことではなく、文字どおり有り難い、きわめて稀なことなのである。

だれでもさまざまなことに悩み、落ち込んだり、ときに困難に出遭って進退窮まるという状況に陥ることがある。そんなときは、みずからの存在を客観的にみつめ、一人の人間として生かされている不思議に想いを馳せてみてはどうか。おのずと有り難いという感情が沸きあがってきて、小さなことによくよしたり悩んでいたことが馬鹿馬鹿しくなってくる。困難に際してどう生きていくべきかも冷静に考えられてこよう。

この世に自分はたった一人。そして、ここにこうして、今、生きている、この奇跡、その素晴らしさ。悩むことは何もないのである。(PHP No. 745)

子どもに伝えたい「いい言葉」

人生は数え切れない程のスタートに満ちあふれている

★スタートラインを引くのも自分です。

(雑感) 八月二八日、事件があった。体育館玄関でバスケット部の生徒が何やら不安げな表情で外を眺めている。見ると、巢から落ちたヒヨドリ

の雛が地面をトコトコ歩きながら、キーキーとさえずっている。すぐ近くで親鳥(生徒達はお母さん鳥と主張していたが、お父さんも知れない・・・)も不安そうに警戒しながらキーキーと鳴いている。人が雛に近づこうものなら、一層大きな声でキーヤァ!、キーヤァ!と叫びながら、今にも襲ってきそうな勢いで頭の近くを飛び回っている。命を賭けて▼元県教育次長山崎滋夫先生の文章を引用する。「(中学生になると)まわりの大人たちの言葉や考え方を批判できるようになり、言われるままに行動することがいやになることもあるし、さからってみたくもなる。その様子は、翼は大きくなくなったものの、まだ自分でエサをとることはできず、巢の上でしきりに羽ばたきをくり返す若鳥に似ている。やがて巣立つ時が来るが、今は、与えられたエサをしっかりと噛んで羽ばたきを鍛え、飛び立つ森と大空をよく見渡しておくことだ。高く遠くへ飛びたいと思うなら、あわてて飛ぶな」▼本能なのか愛情なのはわからないが、とにかく親は子を命がけで守るものだ。子にとっては、そのことが時にうっとおしく感じられ、早く巣立とうとするが、早過ぎる巣立ちには危険なのだ。ゆっくり、じっくり大人になればよい。昨今は、「子の親離れ」と同様に「親の子離れ」の必要性も言われる。以前書いた「啐啄同時」と同様に、子育てもタイミングが重要なのである▼翌二九日朝。親鳥がしきりにキーキー鳴きながら、何かを探すように飛び回っていた。私も一緒に地面に眼をこらして見たが、雛は見当たらない。親にとって、非情な子離れほど残酷なものはない。

